

## ImPACT プログラム・マネージャー採用候補の選定結果について

平成 27 年 9 月 3 日

革新的研究開発推進プログラム有識者会議

革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）においては、平成 26 年度に 12 名のプログラム・マネージャー（PM）を採用したところであるが、将来の方向性を先取りし、ImPACT の趣旨に適合するものを、先行的・先導的に取り上げていくため、果敢に挑戦する若干名の優れた PM を新たに採択することとした。

革新的研究開発推進プログラム有識者会議（以下、「有識者会議」という。）は、「革新的研究開発推進プログラム運用基本方針」（平成 26 年 2 月 14 日総合科学技術会議）等に基づき、PM の公募と採用候補の選定を進めてきたが、今般、PM 採用候補として、有識者会議が適当と認める候補を選定したので、以下にその経緯とともに報告する。

### 1. 公募

PM の公募は、4 月 17 日に開始し、6 月 5 日に締め切った。その際、優秀な人材を広く内外から求めるため、昨年度と同様、産学官の関係団体へ会員等への周知依頼、説明会開催等を行い、積極的な応募の働きかけを行った。

その結果、75 名の応募（1 名が 2 件応募したため、提案の件数は 76 件）が寄せられた。応募者の所属機関等別の内訳は、表 1 のとおりであった。

表 1 応募者の所属機関等

企業等の産業界	20 名 (26.7%)
大学等の学术界	39 名 (52.0%)
国立研究開発法人等の公的機関	10 名 (13.3%)
財団法人等の団体	2 名 (2.7%)
個人研究者等	4 名 (5.3%)

### 2. 審査経過

審査は、書面審査と面接審査により行うものとし、「①将来変化を大胆に先取りし、今後のイノベーションの潮流になると見込まれるもの」及び「②

国家存立の基盤にかかわるような国家的重要課題に対応するもの」を重視することとした。また、昨年度の審査の経験を踏まえ、面接審査による人物評価を重視し、面接を2回実施することとした。

審査は、有識者会議において行うが、外部の視点を入れ、評価の参考とするべく、産学官の有識者にレビュアーとして意見提出を依頼した。レビュアーは、特定の提案について技術面からの意見を求める「技術レビュアー」と、面接に参加し幅広い観点から人物及び研究開発構想について意見を求める「俯瞰レビュアー」から構成される。なお、審査に当たっては、コンセンサス（全員一致）方式や平均点方式に拘らず、ImPACTの制度趣旨に見合った特徴ある提案を選定するよう努めるものとした。

#### （1）書面審査

書面審査においては、「①研究開発プログラム構想の ImPACT 制度趣旨との整合性」及び「②構想の適切性」について確認を行い、面接審査の対象者を選定した。

まず、①について整合性が認められると評価された提案 33 件について、技術レビュアーに②の観点から、例えば科学的に不可能と位置づけられるものや、長期に渡る研究開発において実現が限りなく困難であることが立証されているものが含まれていないかといった点について意見を求め、それを参考に、7月9日に開催された第11回有識者会議において、面接審査の対象者 15 名を決定した。

#### （2）面接審査

面接審査においては、プログラム構想についての評価に加え、マネジメント方針等についてヒアリングすることにより PM としての人物の適切性について評価を行った。

一次面接は7月13日及び14日に実施され、俯瞰レビュアーが大所高所の観点から面接対象者との質疑に参加し、有識者会議の構成員はそれを参考に評価を行った。その結果、15名の対象者のうち、評価が高かった4名と、さらにヒアリングにより適性について見極める必要があると評価された1名の合計5名について、二次面接の対象とすることになった。

二次面接は7月28日に実施され、有識者会議の構成員が、一次面接にお

ける質疑に対する追加説明等への対応を通じて、PM としての適性について最終的な確認を行った。その結果、4名についてPM として採用するに値するものと評価された。

### 3. PM 採用候補

書面審査及び面接審査における評価結果を受けて、7月30日に開催された第12回有識者会議において、別紙に示す4名をPM 採用候補として決定した。



## プログラム・マネージャー採用候補

候補者氏名・主要略歴	プログラム名称	提案概要
白坂成功（しらさか せいこう） 現職：慶應義塾大学准教授 ・東京大学大学院 修士課程修了 ・慶應義塾大学 博士取得 ・三菱電機(株)勤務 ・EADS Astrium 社(現エアバス社)交換派遣	「オンデマンド即時観測を可能にする小型合成開口レーダ衛星システムによる安心の実現」	オンデマンド即時観測が可能な小型 SAR 衛星システムにより、自然災害等の緊急対応時に夜間や悪天候でも必要な観測地点を即時に観測可能とし、被害の最小化や対処の迅速化など安心・安全に貢献する。
野地博行（のじ ひろゆき） 現職：東京大学教授 ・東京工業大学大学院 博士課程修了 ・JST(CREST/PRESTO) 研究員 ・東京大学生産技術研究所助教授 ・大阪大学産業科学研究所教授	「豊かで安全な社会と新しいバイオものづくりを実現する人工細胞リアクタ」	バイオ分子による超高感度デジタル臨床診断システムと超並列型機能分子スクリーニング技術を発展させ、自在に高機能物質の生産が可能な人工細胞を実現し、バイオものづくり分野に革命を起こす。
原田香奈子（はらだ かなこ） 現職：東京大学特任講師 ・東京大学大学院 修士課程修了 ・(株)日立製作所勤務 ・聖アンナ大学院大学(イタリア)博士研究員 ・(独)医薬品医療機器総合機構特任職員	「バイオニックヒューマノイドが拓く新産業革命」	人体を精巧にモデル化した「バイオニックヒューマノイド」の開発により、定量的・倫理的な研究開発・評価手法と匠の技の再現を実現し、製造業や医療等をはじめとする広範な産業に革命を起こす。
原田博司（はらだ ひろし） 現職：京都大学教授 ・大阪大学大学院 博士課程修了 ・郵政省通信総合研究所勤務 ・デルフト工科大学(オランダ)研究員 ・(独)情報通信研究機構 研究室長	「超ビッグデータプラットフォームによる社会リスク撤廃のための革新的イノベーション」	現状のビッグデータ規模を遙かに凌ぐ「超ビッグデータ」プラットフォームにより、新たな社会応用としてヒューマンセキュリティとファクトリセキュリティの実現に挑戦する。